

動揺する70年

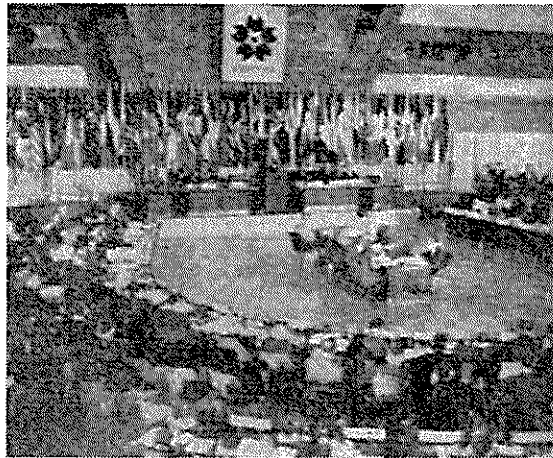
万国博覧会・安全保障条約

「人類の進歩と調和」万国博

以前から話題になっていっている一九七〇年。この年は、万国博と安保という二つの重大な問題を含んでいる。国際親善を図るための万国博、日本の将来を左右する安保、安保にまつわる学生運動、沖縄対外関係など、何れの問題をとってみても我々が深く考えなくてはならないものばかりである。にもかかわらず、現在はまだ、これらに関心がない人が多いようである。しかし、これらの問題、またその他の社会問題にも深く関心をもってもらいたいものである。尚これらの問題については、来年までずっと特集とする。そこで、これに関する資料、投稿、意見などを寄せてもらいたい。

万国博

万国博は、一八五一年ロンドンで開かれた。第二回が開かれて以来、現在に至るまで、二十数回にわたってヨーロッパやアメリカの各地で開かれてきた。国際的な博覧会として、その歴史は、二つの世界大戦を経て、三つの時代に大別できよう。第一期は、第一次大戦までの時期（一八五一年～一九一〇年）で、この時代に開かれた万国博は、科学と技術の進歩と産業の躍進を背景に、文明発展品を次々と生み出した。第二期は、二つの大戦にはさまれた時期（一九二〇～一九三九年）で、単なる新製品や新奇なものだけでは、人々を満足させることができなかった。第三期は、第二次大戦後から現在に至る時期（一九五八）で、機械文明の躍進や、国際親善の回復と、より均衡のとれた社会への発展を目的とし、万国博は「人類の進歩と調和」というテーマを掲げ、今度のテーマである。



政府代表会 検討を / 検討に

「人類の進歩と調和」という言葉が、人類の歴史の過去、現在、未来を要約し、また人類の進歩と調和を表現している。この三つの期間を通じて、観客の流れを処理する大規模なコミュニケーション機構として、二つの塔が建てられています。透明な大屋根を突き上げて、中央の塔が「太陽の塔」、向かって左が「母の塔」、右が「青春の塔」。これらの塔は、無制限に歩んでいく人類の歩みと象徴するとともに、シンボル・ソンの標榜物と呼吸して芸術的・宗教的な空間をつくり出しています。また、産業の象徴である時計塔に、文化の象徴である万国博の塔が、非常に大きい。よく日本万国博では、人類愛の場となるお祭り広場が計画されているだけに、そこでどんな催しが行われるか、注目の的となっています。その国防の聖方針は、外部からの侵入を防ぐこと、米国の安全保障条約と比べて見れば、条約に本国内及びその付近にアメリカの軍艦を駐留させるものであった。政の下にある領域に限り、米国の領域が条約区域に全く含まれておらず、その代わりに、日本のためだけに「極東の安

地は 51,599 エーカーであると提示されている。その基地の数は陸軍68、空軍22、海兵隊17、海軍13、計120である。しかし、アメリカの極東政策における、沖縄基地の地位はその地理的位置が重要視されているだけで、案外低い。それよりも本土の佐世保や横須賀の役割の方が、はるかに大きい。そういう意味では、沖縄基地は、単に補完的なものにはすぎない。しかし、やはりその機能は大きい。1967年に、嘉手納空軍基地に発着した飛行機は、3分間に1機、年間16万8千機にのぼる。この間同基地に出入した米将兵、その他軍事行動のための乗客は、805,234人である。その為、一番心配された、大きな政治問題にもなった。基地犯罪や基地災害も多い。70年安保を控え、増々混乱していく沖縄問題に、自分のしっかりした考えが、必要になってくるだろう。

現状をみつめよう 沖縄

現在、我が国には、沖縄は、板付をはじめ、数多くの米軍基地が置かれている。その存在を知らない人はおそろしくないだろう。しかしその基地がどこにあり、どの位の位置を占め、それによって、どういう影響が及ぼされているかという様なことを、知って人は少ないだろう。深く考えてみた人も、少ないだろう。この問題は、我々高校生にとっては、むずかしい目もろくはない。我々は、高校生なりこの問題に、取り組むべきであると思う。我々新聞部では、これからこの基地の問題を取り上げてゆきたいと思う。その先がけとして、今一番問題になっている、沖縄基地について取り上げてみよう。

沖縄の米軍用地の面積は全沖縄面積の8.7%、沖縄群島の13.9%であると言われている。しかし、米政府の使用する「賃借私有地」は、その一部を占めてみても、表わしたものと、そうくりです。百年史、映画コンクールなども、海外からの初参りをあけた方々、何ぞれませう。

このように、世界中から期待の目を向けられている日本万国博の、本祭から土人の舞い、はたやサイケデリックショーまで催される世界平和を願いたいものです。

余の為に米軍に基地を提供している点です。

他の相互防衛条約では、どれも双方の締約国(多数国間の条約の場合)はすべての締約国の領域の全部か一部が条約区域になっている。しかし、このような共同防衛条約(二国間の「不利益」を補う意味で、安保条約第六條は、いわゆる「極東事項」がある。第九條は日本が米軍に基地を提供する義務をもっていることを定めた条約だが、その基地提供の目的は、日本の安全のためばかりでなく、条約区域の外にある「極東」における国際的平和及び安全の維持に寄与するためと明記されているのだ。つまり米軍にとって「極東の平和と安全」という幅のある目的のために、日本国内の基地を提供する利益があるわけである。条約区域が日本の領域に限定されていることのない。この点で、日本安保条約はきわめて特殊なものとなっている。今後、沖縄返還問題、七〇年の安保の取扱いが論議されるにつれて日本安保条約への日本の意図が明らかになるか、その目的が明らかになるか、

制約は憲法九条に由来

安全保障条約

日本安保条約は、戦後日本に米国の国防政策の基本を定めた。その国防の聖方針は、外部からの侵入を防ぐこと、米国の安全保障条約と比べて見れば、条約に本国内及びその付近にアメリカの軍艦を駐留させるものであった。政の下にある領域に限り、米国の領域が条約区域に全く含まれておらず、その代わりに、日本のためだけに「極東の安

最初に述べたように、一年生の諸君は今希望と、目的を持って学校へ来ていることであろう。ぜひともその意志を忘れずに、三年間貫いて欲しい。むずかしいが、しかし、やれば出来る。普通には、それだけの力と、若さがある。又、やればそれだけの報いがある。二、三年生の諸君も今なら、まだやれる。一度あきらめた人もぜひもう一度、希望を持って勉学に、スポーツに、その他にも頑張ってください。

長髪の問題が本格的に取り上げられた。悪習とやらにしろ、この問題が解決されたことは、大きな成果であった。役員にとっては、その他の事で満足しなかったことが、あったかも知れない。しかし、それは、役員のせいではなく、生徒に原因があったのだと思う。

生徒会を認識する人任せにした生徒の責任であると思う。今回前回と同じく対立候補がある。

意義ある生活を！

主張

あまたしく四月が過ぎ、連休明け、とくに空の賑わいも消え、校内にも活気が戻ってきた。希望と不安の感情を帯びて入学して一年生も、いつしか高校生活になじみ、先生に笑顔を見せるようになってきた。

「初心者の人から、諸君は、おそろしく言葉を知らないでいる。つまり、初一念を貫く、というところにある。我々が入学した時、これからは、これからは、この意識が、これから始まる高校生活における青春時代に、志を燃やしたものであった。そして、その時、我々の胸は、大空に飛ぶ鳥の如きであった。学校が始まる頃、大空に飛ぶ鳥の如きであった。スポーツをやろう、あの大学の下の思い、きりかへよう。いや、文化部へ入ろう、特技を生かして才能を伸ばそう。みんなに負けたくない、いや、絶対に負けたくない。こう思ったのが、我々の入学した時の初心であった。こういふ、大事の決心と、この自覚となり、自覚した



基地撤去の集会

基地撤去の集会

「極東の安

手芸専門の店

し ら き

若松区明治町

龍 そ ば

本町銀座 TEL ⑦ 4320
TEL ⑦ 4047

特色ある会に

44年度オリエンテーション

去る四月十一日(金)、恒例のオリエンテーションが、体育館三階で行なわれた。

今年で経験したことがないためか、みんな期待をこめて参加しているようだった。それに、生徒たちだけで運営されているのを見て、驚くことに、これからの高専生活に対する気持ちを新たに引き締めたことだろう。

今回のオリエンテーションは、気持よく行なわれ、非常に好評が多かったこと、上級生が、各クラブの部長などとして、ヤジを飛ばしていったことなど。

本世のように私語が多かったらどうか。第一に上げられることは、内容的にあまりおもしろくなかったこと。第二に、大部分の人が入るクラブを大体決めていたことだ。このようにおもしろくないのは、まず内容について考えなければならぬ。人形劇・吹奏楽・音楽・拳闘(曲部等)が、例年通り今年も練習してきた。前回は、内模試開始の前日であり、ちょっとおいて生徒大会が行なわれた。

恒例の、若高でたまたまの遠足と一緒の一日であったが、遠足も、前回は一年生のための歓迎遠足が行なわれた。三年生にとっては、前回の雨も晴れが、絶好のコンディションであった。

恒例の、若高でたまたまの遠足と一緒の一日であったが、遠足も、前回は一年生のための歓迎遠足が行なわれた。三年生にとっては、前回の雨も晴れが、絶好のコンディションであった。

晴れて良かった

歓迎遠足

恒例の、若高でたまたまの遠足と一緒の一日であったが、遠足も、前回は一年生のための歓迎遠足が行なわれた。三年生にとっては、前回の雨も晴れが、絶好のコンディションであった。



園内に這入ると、若葉の香り立つ。花とどりの花・花・花

園内に這入ると、若葉の香り立つ。花とどりの花・花・花。園内には、温帯ではバナナが実を付けて、観賞者の手に活力を与えているようであった。園内には、観賞用の花も咲き、来訪者は、ストレス解消の場として、花とどりに咲いていた。

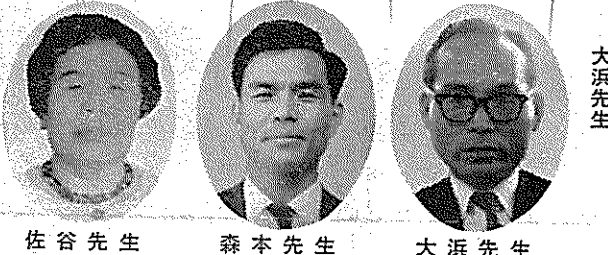
生徒大会

去る四月十八日、体育館三階にて行なわれた。恒例の、若高でたまたまの遠足と一緒の一日であったが、遠足も、前回は一年生のための歓迎遠足が行なわれた。三年生にとっては、前回の雨も晴れが、絶好のコンディションであった。



生徒大会の様子

恒例の、若高でたまたまの遠足と一緒の一日であったが、遠足も、前回は一年生のための歓迎遠足が行なわれた。三年生にとっては、前回の雨も晴れが、絶好のコンディションであった。



佐谷先生 森本先生 大浜先生

恒例の、若高でたまたまの遠足と一緒の一日であったが、遠足も、前回は一年生のための歓迎遠足が行なわれた。三年生にとっては、前回の雨も晴れが、絶好のコンディションであった。

お願いします

新任紹介

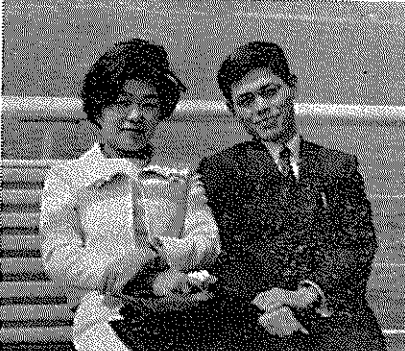
恒例の、若高でたまたまの遠足と一緒の一日であったが、遠足も、前回は一年生のための歓迎遠足が行なわれた。三年生にとっては、前回の雨も晴れが、絶好のコンディションであった。

先生宅訪問

恒例の、若高でたまたまの遠足と一緒の一日であったが、遠足も、前回は一年生のための歓迎遠足が行なわれた。三年生にとっては、前回の雨も晴れが、絶好のコンディションであった。

讃井先生の巻

数学科担当



二人のおまじつ

恒例の、若高でたまたまの遠足と一緒の一日であったが、遠足も、前回は一年生のための歓迎遠足が行なわれた。三年生にとっては、前回の雨も晴れが、絶好のコンディションであった。

ズッコケた

恒例の、若高でたまたまの遠足と一緒の一日であったが、遠足も、前回は一年生のための歓迎遠足が行なわれた。三年生にとっては、前回の雨も晴れが、絶好のコンディションであった。

恒例の、若高でたまたまの遠足と一緒の一日であったが、遠足も、前回は一年生のための歓迎遠足が行なわれた。三年生にとっては、前回の雨も晴れが、絶好のコンディションであった。



カメラの各部

恒例の、若高でたまたまの遠足と一緒の一日であったが、遠足も、前回は一年生のための歓迎遠足が行なわれた。三年生にとっては、前回の雨も晴れが、絶好のコンディションであった。

すぐれた品を より安く ご奉仕

若松 丸 柏

本町3丁目 TEL 761 231

23 10 26 30 16 3 48 19 3 42

